

評価項目	ウェイト	項目得点	自己評価	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
1 資料収集保管	15%	3.13	B	自然史分野、歴史分野とも、資料収集方針に沿った収集ができた。デジタルデータベース登録数は、自然史分野では目標を達成したが、歴史分野では未達成だった。 全体として資料を計画的に収集・整理・保管できていると認められるが、未達成の細目があることから、本項目の総合評価はBが妥当と判断した。	B	自己評価どおり概ね収集方針に沿った収集ができている。自己評価は妥当である。
2 調査研究	15%	4.10	A	外部資金による研究は、実施件数が減少し、科研費の応募率が目標を下回った。研究成果は、自然史分野、歴史分野とも、目標を達成した。 全体として調査研究を戦略的に行き、成果を得られていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	科研費の採択において一程度の採択数を維持し、科研費以外の外部資金も視野に入れて獲得し、研究成果を出している。自己評価は妥当である。
3 展示	15%	3.55	A	総入館者数は目標をほぼ達成した。観覧者の目線で常設展の磨き上げを行った。特別展は、総入場者数の目標を達成できなかったが、テーマの多様性、重要性、新規性を意識し、観覧者のニーズに応えられた。歴史企画展3回のほか、短期展示・出張展示を計7回実施した。 全体として自然史や歴史に対する市民の興味関心を高め、魅力的で良質な展示を実施できていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	一程度の入場者数を確保できていること、かつアンケート結果から観覧者の展示内容に対する理解度の高さが得られていることから、高水準の展示を行うことができていると判断できる。自己評価は妥当である。
4 教育普及	15%	4.15	A	学校団体誘致事業は目標を達成した。学校教育支援事業、家庭教育支援事業では、様々な取り組みを通じて教育支援を行った。普及講座は、特別展開連を含めて50回実施し、計5,956人の方に参加いただいた。博物館実習を例年どおり実施した。 セカンドスクールとして、子どもたちの来館機会を創出し、理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを進められており、市民のニーズに合った教育普及活動を行っていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	いずれの活動においても概ね過去の平均値を達成しており十分に評価できる。自己評価は妥当である。
5 情報発信	10%	3.88	A	広報・報道(市政記者クラブ等)への情報提供、ホームページによる情報提供の実績は、過去3年度平均値とほぼ同等だった。SNSによる情報提供の実績は過去3年度平均値を上回った。 多様な広報媒体を活用し、特別展をはじめとするとする博物館活動の情報発信に努めていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	いずれの活動においても概ね過去の平均値を達成しており十分に評価できる。自己評価は妥当である。
6 市民との協働	10%	4.00	A	シーダーの活動は目標を達成した。資料整理補助グループの活動日数は前年度を上回った。自然史友の会、歴史友の会とも、計画通り活動実施を支援できた。 市民との協働による取り組みが進められており、友の会の活動を支援できていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	いずれの活動においても実績は十分に評価できる。自己評価は妥当である。
7 社会貢献	10%	3.60	A	資料貸出、特別観覧等、委員等就任、講師等派遣、職場体験・インターンシップ・教員研修といった、外部機関からの依頼に応えられた。 研究・教育機関として社会に貢献できていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	いずれの活動においても概ね過去の平均値と同程度であり十分に評価できる。自己評価は妥当である。
8 その他	10%	4.00	A	東アジア友好博物館交流事業として実務者会議及び意見交換会を開催した。ナイトミュージアムでは、より多くの方に来館いただける工夫に取り組んだ。開館時の「理念と方向性」を踏まえた新たなミッションを、全職員の意見を集約しボトムアップで策定した。 必要な事業を展開し、博物館の魅力向上に努めていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	自己評価は妥当である。
総合評価(全体)			A	項目評価の点数の荷重平均は3.79点であり、全体の総合評価はAとなった。 自己評価は、調査研究、展示、教育普及、情報発信、市民との協働、社会貢献の6項目についてAであり、資料収集保管の1項目についてBであるほか、その他の重点事業についてAであることから、博物館活動全体の総合評価はAが妥当と判断した。	A	博物館のさまざまな活動がバランスよく行われている。自己評価は妥当である。

評価:A 良い; B 概ね良い; C やや不十分; D 不十分

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
1 資料収集保管	資料を計画的 に収集・整理・ 保管できているか	資料収集 (自然史) 25%	●資料収集五カ年計画の年度毎の達成度 (定性指標、第3基準)	79%		資料収集五カ年計画の5年目にあたり、達成度100%を目標とし、実績は79%だった:B	年報54～55頁 別紙1	B+	B	定性指標はA及びB、調整項目は+であることから、「五カ年計画の達成度」を重視し、本細目の評価はB+とした。	A	自己評価どおり概ね収集方針に沿った収集が できている。自己評価は妥当である。
			●資料収集方針に沿った収集ができたか (定性指標、第3基準)	資料収集方針 に沿った収集 ができた		資料収集方針に沿った収集ができた:A						
			●特筆する資料が得られたか (調整事項、第4基準)	模式標本 15点		昆虫の模式標本15点等の重要資料が得られた: +						
		資料管理 (自然史) 25%	●デジタルデータベース登録数の目標達成率 (定量指標、第2基準)	4,652件	3,156件 (2,648件)	デジタルデータベース登録数1,820件を目標とし、達成率は256%だった:A	年報54頁	A	B	定量指標はA、定性指標はないことから、本細目の評価はAとした。	A	
			●年度毎に定める資料整理計画の達成度 (定性指標、第3基準)	—		※令和8年度から実施予定						
		資料収集 (歴史) 25%	●受入手続を終了した資料数 (定量指標、第2基準)	3,786点	3,828点 (1,099点)	受入手続を終了した資料数は、前年度比99%、過去5年度平均比344%だった:A	年報55～56頁 別紙2	A	B	定量的指標はA、定性的指標はA、調整事項はないことから、本細目の評価はAとした。	A	
			●資料収集方針に沿った収集ができたか (定性指標、第3基準)	資料収集方針 に沿った収集 ができた		資料収集方針に沿った収集ができた:A						
			●特筆する資料が得られたか (調整事項、第4基準)	なし		特になかった:加点減点なし						
		資料管理 (歴史) 25%	●デジタルデータベース登録数 (定量指標、第2基準)	524件	1,290件	デジタルデータベース登録数は、前年度比41%だった:D	年報55頁	D	B	定量指標はD、定性指標はないことから、本細目の評価はDとした。	D	
			●年度毎に定める資料整理計画の達成度 (定性指標、第3基準)	—		※資料整理計画の策定を検討中						
	総合評価(項目別)								B	B	細目評価の点数の加重平均は3.13点であり、本項目の総合評価はBとなった。 自然史分野、歴史分野とも、資料収集方針に沿った収集ができた。デジタルデータベース登録数は、自然史分野では目標を達成したが、歴史分野では未達成だった。 全体として資料を計画的に収集・整理・保管できていると認められるが、未達成の細目があることから、本項目の総合評価はBが妥当と判断した。	

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去5年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
2 調査研究	調査研究を戦 略的に行い、 成果を得られ ているか	外部資金に よる研究 20%	●外部資金による研究課題数 (定量的指標、第2基準)	21件	28件 (27件)	外部資金による研究課題数は、前年度比75%、 過去5年度平均比78%だった:B	年報64～70頁	B+	A・B	定量的指標はB及びC、調整項目は+であるこ とから、「外部資金による研究課題数」を重視し、 科研費の採択率が高かったことを考慮して、本細 目の評価はB+とした。	B+	科研費の採択において一程度の採択数を維持 し、科研費以外の外部資金も視野に入れて獲得 し、研究成果を出している。自己評価は妥当であ る。
			●科研費の応募率 (定量的指標、第2基準)	応募可能者 12人 応募者 8人	応募可能者 11人 応募者 8人	科研費の応募率は100%を目標とし、実績は 67%だった:C 参考:科研費の採択率 ・当館 38% (8人中3人採択) ・全国 27.2%						
			●科研費以外の外部資金の採択数 (調整事項、第4基準)	3件	4件 (3件)	科研費以外の外部資金の採択が3件あった: +						
		研究成果 (自然史***) 40%	●論文等の出版数の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	30本	35本 (33本)	論文等の出版数は過去5年度平均値(33本)を 目標とし、達成率は91%だった:A 参考:論文等の内訳 ・査読あり論文等28本 ・査読なし論文等2本	年報64～70頁	A+	B	定量的指標はA及びA、調整事項は+であるこ とから、本細目の評価はA+とした。	A+	
			●学会等の発表数の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	30件	29件 (25件)	学会等の発表数は過去5年度平均値(25件)を 目標とし、達成率は120%だった:A						
			●論文以外(普及書等)の執筆等があったか ●受賞、報道、招待講演等があったか (調整事項、第4基準)	普及書等 9件 受賞 1件	普及書等 10件 (8件)	普及書等の執筆9件があったほか、日本動物分 類学会奨励賞の受賞があった: +						
		研究成果 (歴史) 40%	●論文等の出版数及び学会等の発表数の目標 達成率 (定量的指標、第2基準)	計6件	計14件 (計12件)	論文等の出版数及び学会等の発表数は計6件 (1人が論文等1本または学会等1件)を目標とし、 達成率は100%だったが、件数は前年度実績や 過去5年度平均を大きく下回った:A 参考:実績の内訳 ・査読あり論文等2本 ・査読なし論文等2本 ・学会等2件	年報64～70頁	A	B	定量的指標はA、調整事項はないことから、本 細目の評価はAとした。	A	
			●論文以外(普及書等)の執筆等があったか ●受賞、報道、招待講演等があったか (調整事項、第4基準)	普及書等 1件	普及書等 2件 (4件)	普及書等の執筆1件があった:加点点なし						
		総合評価(項目別)								A	B	

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C ややや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点点あり(+0.5点); - 減点点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去5年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

*** 館長を含む

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
3 展示	自然史や歴史 に対する市民 の興味関心を 高め、魅力的 で良質な展示 を実施できて いるか	常設展 40%	●総入館者数の目標達成率 (定量的指標、第1基準)	433,282人	472,957人 (435,685人)	総入館者数は過去3年度平均値(435,685人)を 目標とし、達成率は99%だった:A	年報13～14頁 年報27～30頁 別紙3	A	B	定量的指標はA、定性的指標はAであることか ら、本細目の評価はAとした。	A	一程度の入場者数を確保できていること、かつ アンケート結果から観覧者の展示内容に対する 理解度の高さが得られていることから、高水準の 展示を行うことができていると判断できる。自己 評価は妥当である。
			●観覧者の目線で展示等を磨き上げられたか (定性的指標、第3基準)	展示替え 2件6回 現場改善 17件		ヒストリーアートギャラリー等、展示替え2件6回を 行った。観覧者の目線を踏まえ、点字ブロックの 増設や階段識別シールの設置等、現場改善16 件を行った:A						
		特別展 30%	●総入場者数の目標達成率 (定量的指標、第1基準)	120,430人	169,012人 (146,112人)***	総入場者数は過去3年度平均値(146,112人)を 目標とし、達成率は82%だった:D 参考:各特別展の入場者数 ・春の特別展 26,603人(37,813人)* ・夏の特別展 71,590人(82,496人)* ・秋の特別展 22,237人(25,803人)*	年報16～23頁 別紙4	B	A・B	定量的指標はD、定性的指標はAであることか ら、「テーマの多様性、重要性、新規性があつ た」、「来館者のニーズに応えられた」ことを重視 し、本細目の評価はBとした。	B	
			●テーマの多様性、重要性、新規性があつたか ●観覧者の満足度・理解度 (定性的指標、第3基準)	自然史分野 2回 歴史分野 1回		テーマの多様性、重要性、新規性を意識し、自然 史分野2回(全国初公開資料の展示あり)、歴史 分野1回(国指定重要文化財の展示あり)の特別 展を開催した。アンケート結果は、理解度、満足 度とも、4点満点中3.5点を上回った:A 参考:各特別展のアンケート結果 ・春の特別展 理解度3.40点 満足度3.61点 ・夏の特別展 理解度3.57点 満足度3.74点 ・秋の特別展 理解度3.60点 満足度3.70点						
		歴史企画展 20%	●総入場者数の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	—		※センサーによる入場者数測定を検討中	年報24～26頁	B	B	定量的指標はなく、定性的指標はBであること から、本細目の評価はBとした。	B	
			●観覧者の満足度・理解度 (定性的指標、第3基準)	—		歴史企画展3回を開催した。例年度より少ない が、博物館の代表的コレクションの価値を問い直 す企画展や、「昭和100年」という時宜に適った テーマを扱った。後者は大勢の入場者で賑わった が、特にゲームなどの体験は人気だったが、故 障等も多く、メンテナンスに手間を要した。また、 おもちゃの選定・陳列方法や展示解説が十分で はなかった:B ※令和8年度からアンケート調査を実施予定						
		短期展示 出張展示 10%	●短期展示の実施数の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	5回	3回 (5回)	短期展示の実施数は過去3年度平均値(5回)を 目標とし、達成率は100%だった:A	年報27～30頁	A+	A	定量的指標はA、調整事項は+であることか ら、本細目の評価はA+とした。	A+	
			●出張展示の実施数 (調整事項、第4基準)	2回	4回 (3回)	全ての依頼に応じて実施できた: +						
	総合評価(項目別)								A	B	細目評価の点数の加重平均は3.55点であり、 本項目の総合評価はAとなった。 総入館者数は目標をほぼ達成した。観覧者の 目線で常設展の磨き上げを行った。特別展は、 総入場者数の目標を達成できなかったが、テー マの多様性、重要性、新規性を意識し、観覧者の ニーズに応えられた。歴史企画展3回のほか、短 期展示・出張展示を計7回実施した。 全体として自然史や歴史に対する市民の興味 関心を高め、魅力的で良質な展示を実施できて いると認められることから、本項目の総合評価は Aが妥当と判断した。	A

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去3年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

***春、夏、秋の特別展の合計(冬の特別展を含まない)

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
4 教育普及 (1枚目/2枚中)	セカンドスクールとして、子どもたちの来館機会を創出し、理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを進められているか	学校団体誘致事業 20%	●学校団体誘致活動の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	124件	123件 (105件)	学校団体誘致活動は100件を目標とし、達成率は124%だった:A 参考:訪問件数の内訳 ・市内小学校24校 ・県内旅行社0社 ・県外旅行社100社	年報38～40頁	A	A	定量的指標はA及びAであることから、本細目の評価はAとした。	A	いずれの活動においても概ね過去の平均値を達成しており十分に評価できる。自己評価は妥当である。
			●情報誌発行数の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	9回	9回 (11回)	情報誌発行数は9回を目標とし、達成率は100%だった:A						
		学校教育支援事業 20%	●学校団体の入館数・入館者数 (定量的指標、第2基準)	896団体 計53,977人	911団体 (840団体) 計54,104人 (計49,797人)	学校団体の入館数は、前年度比98%、過去3年度平均比107%だった。入館者数は、前年度比100%、過去3年度平均比108%だった:A	年報38～40頁	A	B	定量的指標はA及びB、定性的指標はAであることから、本細目の評価はAとした。 なお、教育委員会との連携による不登校児童・生徒対策事業「未来へのとびらオンライン授業」について、「博物館浴®」ネットワーク研究会の依頼を受け、国内外の博物館関係者等が参加したオンラインシンポジウムにおいて事例発表を行った。	A	
			●体験プログラム・授業の実施数・参加者数 (定量的指標、第2基準)	98回 計4,907人	136回 (125回) 計7,212人 (計6,363人)	体験プログラム・授業の実施数は、前年度比72%、過去3年度平均比78%だった。参加者数は、前年度比68%、過去3年度平均比77%だった:B						
			●学校教育を支援できたか (定性的指標、第3基準)	ちょこっと博物館 3回 6クラス 教材貸出 8件17点		学校団体の見学受付、体験プログラム・授業の実施に加え、ちょこっと博物館(オンラインによる博物館のワンポイント利用)、教材貸出等を行い、学校教育を支援できた:A						
		家庭教育支援事業 20%	●一般団体の入館数・入館者数 (定量的指標、第2基準)	528団体 13,987人	508団体 (452団体) 13,707人 (11,390人)	一般団体の入館数は、前年度比104%、過去3年度平均比117%だった。入館者数は、前年度比102%、過去3年度平均比123%だった:A	年報38～40頁	A	B	定量的指標はA及びB、定性的指標はAであることから、本細目の評価はAとした。	A	
			●体験プログラムの実施数・参加者数 (定量的指標、第2基準)	7回 計104人	6回 (7回) 計135人 (計165人)	体験プログラム等の実施数は、前年度比117%、過去3年度平均比100%だった。参加者数は、前年度比77%、過去3年度平均比63%だった:B						
			●家庭教育を支援できたか (定性的指標、第3基準)	子どもスクール 22回 計352人		学校団体の見学受付、体験プログラムの実施に加え、子どもスクール等を行い、家庭教育を支援できた:A						

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去3年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由	
4 教育普及 (2枚目/2枚中)	市民のニーズ に合った教育 普及活動を行 えているか	普及講座等 (一般) 20%	●実施数 (定量的指標、第2基準)	32回	34回 (31回)	実施数は、前年度比94%、過去3年度平均比103%だった:A	年報41～42頁	A+	B	定量的指標はA、定性的指標はなく、調整事項は+であることから、本細目の評価はA+とした。	A+		
			●参加者のニーズに応えられているか (定性的指標、第3基準)	—		※アンケートを検討中							
			●参加者数 (調整事項、第4基準)	計822人	計828人 (計707人)	参加者数は、前年度比99%、過去3年度平均比116%だった:+							
		普及講座等 (特別展) 15%	●実施数 (定量的指標、第2基準)	18回	15回 (12回)	実施数は、前年度比120%、過去3年度平均比150%だった:A	年報41～42頁	A+	A	定量的指標はA、定性的指標はなく、調整事項は+であることから、本細目の評価はA+とした。	A+		
			●参加者のニーズに応えられているか (定性的指標、第3基準)	—		※アンケートを検討中							
			●参加者数 (調整事項、第4基準)	計5,164人	計4,148人 (計3,295人)	参加者数は、前年度比124%、過去3年度平均比157%だった:+							
		※ナイトミュージ アム等を含む	博物館実習 5%	●開講数・実施日数 (定量的指標、第2基準)	3回 計25日	3回 (3回) 計25日 (計25日)	開講数・実施日数は、前年度比100%、過去3年度平均比100%だった:A	年報42～43頁	A-		定量的指標はA、定性的指標はなく、調整事項は-であることから、本細目の自己評価はA-とした。		A-
				●参加者のニーズに応えられているか (定性的指標、第3基準)	—		※アンケートを検討中						
				●参加大学数・参加者数 (調整事項、第4基準)	計12校 計18人	計17校 (計18校) 計30人 (計33人)	参加大学数は、前年度比71%、過去3年度平均比67%だった。参加者数は前年度比60%、過去3年度平均比55%だった:-						
	総合評価(項目別)								A	B	細目評価の点数の加重平均は4.15点であり、本項目の総合評価はAとなった。 学校団体誘致事業は目標を達成した。学校教育支援事業、家庭教育支援事業では、様々な取り組みを通じて教育支援を行った。普及講座は、特別展開連を含めて50回実施し、計5,956人の方に参加いただいた。博物館実習を例年どおり実施した。 セカンドスクールとして、子どもたちの来館機会を創出し、理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを進められており、市民のニーズに合った教育普及活動を行っていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A	

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去3年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
5 情報発信	多様な広報媒体を活用し、特別展をはじめとする博物館活動の情報発信に努めているか	広報・報道 50%	●広報・報道への情報提供数 (定量的指標、第2基準)	9件	7件 (10件)	情報提供数は、前年度比129%、過去3年度平均比90%だった:A	年報15頁	A	C	定量的指標はA、調整事項はないことから、本細目の評価はAとした。	A	いずれの活動においても概ね過去の平均値を達成しており十分に評価できる。自己評価は妥当である。
			●報道等で取り上げられた件数 (調整事項、第4基準)	計979件	計1,217件 (計1,053件)	報道等で取り上げられた件数は、前年度比80%、過去3年度平均比93%だった:加減点なし						
		ホームページ 25%	●ホームページによる情報提供数(更新件数) (定量的指標、第2基準)	110件	110件 (110件)	情報提供数は、前年度比100%、過去3年度平均比100%だった:A	年報15頁	Aー	B	定量的指標はA、調整事項はーであることから、本細目の評価はAーとした。	Aー	
			●閲覧数 (調整事項、第4基準)	トップページ 536,863回 全ページ累計 1,244,675回	トップページ 570,521回 (648,581回) 全ページ累計 1,794,023回 (2,059,098回)	トップページ閲覧数は、前年度比94%、過去3年度平均比83%だった。全ページの累計閲覧数は、前年度比69%、過去3年度平均比60%だった:ー						
		SNS 25%	●SNSによる情報提供数(投稿件数) (定量的指標、第2基準)	計940件	計582件 (計694件)	投稿数は、前年度比162%、過去3年度平均比135%だった:A	年報15頁	A	B	定量的指標はA、調整事項はないことから、本細目の評価はAとした。	A	
			●フォロワー数 (調整事項、第4基準)	計21,751人	計20,400人	フォロワー数は前年度比107%だった:加減点なし						
	総合評価(項目別)								A	B	細目評価の点数の加重平均は3.88点であり、本項目の総合評価はAとなった。 広報・報道(市政記者クラブ等)への情報提供、ホームページによる情報提供の実績は、過去3年度平均値とほぼ同等だった。SNSによる情報提供の実績は過去3年度平均値を上回った。 多様な広報媒体を活用し、特別展をはじめとする博物館活動の情報発信に努めていると認められることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断した。	A

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去5年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
6 市民との協働	市民との協働 による取り組みが進めら れているか	シーダー 25%	●活動数の目標達成率 (定量的指標、第2基準)	52人 計2,938日	42人 計1,932日	活動数は各シーダーの活動規定日数の総和(計 2,292日)を目標とし、達成率は128%だった:A	年報49～50頁	A	B	定量的指標はA、定性的指標はAであることか ら、本細目の評価はAとした。	A	いずれの活動においても実績は十分に評価で きる。自己評価は妥当である。
			●活動を支援できたか (定性的指標、第3基準)	シーダーゼミ 11回 バス研修 1回		シーダーゼミ、シーダーバス研修を行う等、活動 を支援できた:A						
		資料整理補助 グループ 25%	●活動日数 (定量的指標、第2基準)	3グループ 計52人 計44日	3グループ 計26人 計34日	活動回数は、前年度比129%だった:A	年報50頁	A		定量的指標はA、定性的指標はAであることか ら、本細目の評価はAとした。	A	
			●活動を支援できたか (定性的指標、第3基準)	研修 1回 資料整理 計2,295点		研修1回を行い骨格標本作成を可能にする等、 作業環境の整備に努め、活動を支援できた:A						
	友の会の活動 を支援できて いるか	自然史 友の会*** 25%	●活動を支援できたか (定性的指標、第3基準)	屋内イベント 5回 屋外イベント 1回 会誌発行 2回 事務会議 17回 部会活動 39回		計画どおりの活動実施を支援できた:A 参考:自然史友の会が定めた年間活動計画 ・屋内イベント5回 ・屋外イベント1回 ・会誌発行2回	年報51～52頁	A	A	定性的指標はAであることから、本細目の評価 はAとした。	A	
		歴史 友の会*** 25%	●活動を支援できたか (定性的指標、第3基準)	講演会 12回 史跡見学会等 6回 会誌発行 3回		計画どおりの活動実施を支援できた:A 参考:歴史友の会が定めた年間活動計画 ・講演会12回 ・史跡見学会等6回 ・会誌発行3回	年報52～53頁	A	A	定性的指標はAであることから、本細目の評価 はAとした。	A	
	総合評価(項目別)								A	A	細目評価の点数の加重平均は4.00点であり、 本項目の総合評価はAとなった。 シーダーの活動は目標を達成した。資料整理 補助グループの活動日数は前年度を上回った。 自然史友の会、歴史友の会とも、計画通り活動 実施を支援できた。 市民との協働による取り組みが進められてお り、友の会の活動を支援できていると認められ ることから、本項目の総合評価はAが妥当と判断 した。	

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去5年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

*** 自然史友の会及び歴史友の会は独立した団体として自主的な活動を行っており、その支援は他律的要素(+または-)であるが、ここでは定性的指標(A～D)として評価する

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	外部評価	外部評価の理由
7 社会貢献	研究・教育機 関として社会に 貢献できているか	資料貸出*** 25%	●資料貸出の依頼対応実績 (定量的指標、第2基準)	実物資料 21件928点 画像等資料 38件117点	実物資料 35件1,591点 (33件662点) 画像等資料 36件109点 (35件97点)	資料貸出の件数は、前年度比83%、過去3年度 平均比87%だった:B	年報58～63頁	B	A	定量的指標はBであることから、本細目の評価 はBとした。 なお、実物資料の貸出点数の大幅減少は、昨 年度に特別展「ネコ」に関わる大量の貸出があっ たことによる。	B	いずれの活動においても概ね過去の平均値と 同程度であり十分に評価できる。自己評価は妥 当である。
		特別観覧等*** 15%	●特別観覧等の依頼対応実績 (定量的指標、第2基準)	特別観覧 34件47人 受託研究員 2人	特別観覧 55件106人 (37件55人) 受託研究員 3人	特別観覧の件数は、前年度比62%、過去3年度 平均比92%だった。受託研究員2人を受け入れ た:B	年報57頁	B		定量的指標はBであることから、本細目の評価 はBとした。	B	
		外部機関 への支援*** 60%	●外部機関からの依頼対応実績 (定量的指標、第2基準)	委員等就任 80件 講師等派遣 67件 職場体験 インターンシップ 教員研修 計10件	委員等就任 94件 (98件) 講師等派遣 62件 (64件) 職場体験 インターンシップ 教員研修 計10件 (計8件)	委員等就任、講師等派遣、職場体験・インターン シップ・教員研修の件数は、前年度比95%、過去 3年度平均比92%だった:A	年報44～48頁	A	A・B	定性的指標はAであることから、本細目の評価 はAとした。	A	
	総合評価(項目別)							A	A	細目評価の点数の加重平均は3.60点であり、 本項目の総合評価はAとなった。 資料貸出、特別観覧等、委員等就任、講師等 派遣、職場体験・インターンシップ・教員研修と いった、外部機関からの依頼に応えられた。 研究・教育機関として社会に貢献できていると 認められることから、本項目の総合評価はAが妥 当と判断した。	A	

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去5年度の平均値。「職場体験・研修等」については過去3年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

*** 外部機関等からの依頼によるため他律的要素(+または-)であるが、ここでは定量的指標(A～D)として評価する。ウェイトは件数に比例する

評価項目	評価視点	評価細目 ウェイト	評価指標	実績	前年度実績*	実績の評価	参考資料	自己評価	前年度の自己 評価(参考)**	自己評価の理由	阿部	外部評価の理由
8 その他	評価項目1～7 以外にも必要 な事業を展開 し、博物館の魅 力向上に努め ているか	東アジア友好 博物館交流 事業 20%	●東アジア友好博物館交流事業を進めたか (定性的指標、第3基準)	実務者会議 1回 意見交換会 1回		当館において実務者会議を開催した。館長会 議・合同研究会は、旅順博物館が急遽不参加と なったが、調整を行い、当館と仁川広域市立博物 館の意見交換会として開催した:A	年報31頁	A		定性的指標はAであることから、本細目の評価 はAとした。	A	自己評価は妥当である。
		ナイト ミュージアム 40%	●より多くの方に来館いただける工夫をしたか (定性的指標、第3基準)	各回で異なる 演出を行った ほか、新企画 に取り組んだ		ナイトミュージアムを6回開催し、各回で異なる演 出(光と音の演出、アースモール解説「学びの時 間」、写真コンテスト等)を行ったほか、新企画とし てクリスマスナイトミュージアム及びコスプレナイト ミュージアムに取り組み、計5,768人(前年度比 156%)の方に来館いただいた:A	年報32頁	A		定量的指標はA、定性的指標はAであることか ら、本細目の評価はAとした。 なお、コスプレナイトミュージアムは、市民サー ビスの向上等につながる優れた取り組みを表彰 する「市長賞オブ・ザ・イヤー」の準グランプリを受賞した。	A	
		ミッション策定 40%	●博物館の活動原則として十分な内容になった か (定性的指標、第3基準)	展示、調査研 究、教育普及、 社会包摂につ いて言及した ミッションを策 定した		ミッションは、博物館の全職員の意見を集約し、 館内会議14回、博物館協議会への諮問と協議3 回を経て策定され、展示、調査研究、教育普及、 社会包摂の各分野について言及したものとなっ た:A	年報33～37頁	A		定性的指標はAであることから、本細目の評価 はAとした。	A	
	総合評価(項目別)							A		細目評価の点数の加重平均は4.00点であり、 本項目の総合評価はAとなった。 東アジア友好博物館交流事業として実務者会 議及び意見交換会を開催した。ナイトミュージア ムでは、より多くの方に来館いただける工夫に取り 組んだ。開館時の「理念と方向性」を踏まえた 新たなミッションを、全職員の意見を集約しボトム アップで策定した。 必要な事業を展開し、博物館の魅力向上に努 めていると認められることから、本項目の総合評 価はAが妥当と判断した。	A	

評価(点数):A 良い(4点); B 概ね良い(3点); C やや不十分(2点); D 不十分(1点); + 加点あり(+0.5点); - 減点あり(-0.5点)

* 括弧内は前年度まで過去5年度の平均値

** 評価指標及び評価基準を改訂したため、評価の比較には注意を要する

評価方法

1 評価指標

- (1) 職員の努力により達成できる「自律的要素」については、「定量的指標」による量的評価と、「定性的指標」による質的評価の、両方または一方を行う。
- (2) 外的要因に大きく依存する「他律的要素」と、職員の能動的な努力による「追加的要素」は、「調整事項」として加点減点による量的評価または質的評価を行う。

	量的評価	質的評価
自律的要素	定量的指標 (第1・2基準)	定性的指標 (第3基準)
他律的要素 追加的要素	調整事項 (第4基準)	

2 評価基準

- (1) 定量的指標は、母数が大きい評価細目に適用する「第1基準」、または母数が小さい評価細目に適用する「第2基準」により、A～Dで評価する。

	A	B	C	D
第1基準	十分に達成 (95%以上)	おおむね達成 (95%未満 90%以上)	やや未達成 (90%未満 85%以上)	未達成 (85%未満)
第2基準	十分に達成 (90%以上)	おおむね達成 (90%未満 75%以上)	やや未達成 (75%未満 60%以上)	未達成 (60%未満)

- (2) 定性的指標は、「第3基準」により、A～Dで評価する。

	A	B	C	D
第3基準	十分に達成 (80%以上)	おおむね達成 (80%未満 60%以上)	やや未達成 (60%未満 40%以上)	未達成 (40%未満)
	大変良い	おおむね良い	やや不十分	不十分

- (3) 調整事項は、「第4基準」により、+（加点）または－（減点）で評価する。

	+	－
第4基準	加点する事項がある	減点する事項がある

自己評価手順

1 評価項目シート

- (1) 評価指標および評価基準に基づいて「細目評価」(A+～D-)を行う。
- (2) 細目評価を下表にもとづいて点数化する。

A	B	C	D	+	－
4点	3点	2点	1点	+0.5点	－0.5点

- (3) 細目評価の点数の加重平均（項目得点）を算出し、下表に基づいて「総合評価（項目別）」の目安を設定し、諸事情を考慮して評価（A～D）を決定する。

細目評価の点数の加重平均（項目得点）＝（評価細目の点数×ウェイト）の総和

3.5点以上	3.5点未満 2.5点以上	2.5点未満 1.5点以上	1.5点未満
A	B	C	D

2 総括シート

- (1) 上記の項目得点の加重平均を算出し、下表にもとづいて「総合評価（総括）」を決定する。

項目得点の加重平均＝（項目得点×ウェイト）の総和

3.5点以上	3.5点未満 2.5点以上	2.5点未満 1.5点以上	1.5点未満
A：大変良い	B：おおむね良い	C：やや不十分	D：不十分